

高木仁三郎市民科学基金 助成研究 完了報告書

提出日：2009年5月3日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	穴あきダム特別調査チーム
連絡先・所属など	遠藤 保男
調査研究・研修のテーマ	多目的ダムから治水専用(穴あき)ダムへの用途・形状変更等に関する調査研究

2. 調査研究・研修結果の概要

穴あきダム事業においては、現時点までの調査により、治水、環境、手続の3点が問題点(仮説を含む)として抽出された。

1. 治水：穴あきダムは、対応する洪水の範囲が限定的であり、下流の状況に対応できていない。流木などにより穴が詰まる危険性がある。

2. 環境：ダム構造物による景観破壊、生態系(動植物)への影響、斜面崩壊、土砂堆積、およびそれらによる水質悪化の懸念がある。

3. 手続：多目的ダム法から河川法へ根拠法が変更されることによる手続の簡素化、「環境に優しい」という情報提供(宣伝)により生じる誤認

これらには、従前のダム問題と共有の問題と、穴あきダム固有の問題の双方があるが、今後、さらなる現地調査、行政、関係者、専門家へのヒアリングおよび情報開示請求その他の文献調査などによる裏付けを行って調査を完成させ、その結果をもとに、報告集の作成、報告会開催等を行う予定。

3. 調査研究・研修の経過

現地調査（2008年3月～4月現在）

2008年3月15日、新足羽川ダム（国交省事業）予定地

文献調査、現地踏査、ダム問題に取り組む住民・市民団体からの聞き取り調査を行った。

2008年3月16、17日、辰巳ダム（石川県事業）予定地

文献調査、現地踏査、ダム問題に取り組む住民・市民団体／事業者からの聞き取り調査を行った。

2008年10月11日 熊本県川辺川ダムおよび上流の樅木砂防ダムと朴木砂防ダム（熊本県事業）

現地踏査、ダム問題に取り組む住民・市民団体からの聞き取り調査を行った。

2008年7月23日、浅川ダム（長野県事業）の模型実験見学

長野県が京都で実施した水利模型実験の見学を行った。

研究者への聞き取り調査（2008年3月～4月現在）

2009年3月13日 佐々木克之（北海道自然保護協会副会長）魚道検証者

関係者聞き取り

2008年11月2、3日 水源開発問題全国総会で辰巳ダム、浅川ダム取り組み団体と情報・意見交換
文献調査等（2008年3月～10月）

- ・「流水型穴あき式ダム」の安全性・環境影響を問う（国土問題研究会 中川学）
 - ・「穴あきダムについて（今本博健.pdf）」（淀川水系流域委員会第43回委員会（H17.7.25）参考資料1（05/06/07 付け今本博健委員意見書）
 - ・「穴あきダムは本当に環境にやさしいか」（グローバルネット 07年5月号、まさのあつこ）
 - ・「ダムと地すべりに浪費される巨費」（岩波書店「世界」2008年12月号、まさのあつこ）、
 - ・「脱ダムが再度必要な浅川の治水」（（財）地球・人間環境フォーラム「グローバルネット」2009年3月号、まさのあつこ）
 - ・各穴あきダム計画に関する基礎（公表）情報
- チーム内および水源開発問題全国連絡会会員向け報告
- ・足羽川スライドと説明
 - ・穴あきダム特別調査チーム行動記録「足羽川ダム計画予定地と辰巳ダム予定地視察と意見交換」
 - ・犀川辰巳治水ダム建設事業認定処分の問題点
 - ・浅川ダムの水利模型実験見学報告
 - ・穴あきダムの魚道に関する報告
 - ・佐々木克之氏ヒアリング報告

4. 調査研究・研修の成果

これまでの予備的な調査により、以下の問題点が抽出された。

1. 治水：対応する洪水の範囲が限定的、下流の状況に穴あきダムでは対応できていない、流木などにより穴が詰まる危険性がある。
2. 環境：ダム構造物による景観破壊、生態系（動植物）への影響、斜面崩壊、土砂堆積、およびそれらによる水質悪化について
3. 手続：多目的ダム法から河川法へ根拠法が変更されることによる手続の簡素化、市民への情報提供手法（環境に優しいという宣伝）

また、上記には、従前のダムと同様の問題と、穴あきダム固有の問題がある。

5 . 対外的な発表実績

6 . 今後の展望

今後は、上記4で、明らかにした論点（治水、環境、手続）の3点につき、現地調査（益田川ダム、浅川ダム予定地、最上小国川ダム予定地）行政、関係者、専門家へのヒアリング（穴あきダム提唱者・角哲也準教授、穴あきダム検証者・今本博健名誉教授、魚類研究家 君塚芳輝氏、環境地質学研究者・坂巻幸雄氏等）および洪水データ等の情報開示請求、その他の文献調査などによる裏付けを行い、調査を完成させ、報告書作成、報告会開催等を実施する予定。

高木基金へのご意見

7. 完了報告 英文概要

Recipient Name	Endo Yasuo
Belonging / Contact Address < 公表可能な問い合わせ先・ メールアドレスなど >	Team WED -Why Empty Dam / yakkun@mvd.biglobe.ne.jp
Theme of Research/Training	Research on exclusive purpose dam for flood control with a hole
Name of the Organization Providing Training < 研修の該当者のみ >	

< 以下の空欄に前記 2 . に対応する内容を英文で記載して下さい。 >

Due to the declining new demand on water supply, river management administrators are now sifting the multiple purpose dam projects to exclusive purpose dam for flood control. They equip a dam with a hole at the bottom so that the river flow runs through it and there is no water held in the reservoir unless it rains heavily. Although the administrators refer “environmentally friendly dams”, so far some concerns (including hypotheses) were extracted from the point of views of flood control function, environment conservation and administrative procedures. 1) Regarding flood control, a hole-built-in dam has its limit for its function. The dam does not match the need of people living down stream. There are risks that driftwood might clog the hole. 2) Regarding the environment conservation, the dam destroys the natural landscape, affects the ecosystem, and causes landslide, sediment and water quality issues. 3) Administrative procedures could be simplified due to the change from the multiple purpose dam to the exclusive purpose dam for flood control. The research team is planning to forward the study along these concerns and hypotheses and finalize it in a year.

< 高木基金の助成についてのご要望・ご感想など、
忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。 >

< 以上です。ご協力ありがとうございました。 >